

昭和五十一年六月招集

第二回館山市議定会定例会會議録第四号

館山市議 会

目次

日時	一
場所	一
出席議員	一
欠席議員	一
出席説明員	一
出席事務局職員	一
議事日程	一
開議	一
議案第四十七号	二
議案第四十八号	九
議案第四十九号	一一
議案第五十号	一七
議案第五十一号	一八
日程の追加・請願書の審査期限延期	二五
日程の追加・常任委員会委員の選任	二五
閉会	二七
本日の会議に付した事件	二七

一、昭和五十一年六月十六日（水曜日）午前十時
館山市役所議場

出席議員 二十八名

一番	吉田勇治郎	二番	伊藤幸太郎
三番	矢戸寿夫	四番	押元 稔
七番	本間昭二	八番	松下正己
九番	鈴木 稔	一〇番	流山源次郎
一番	近藤好雄	一二番	栗原一雄
一三番	林 豊	一四番	石井輝久
一五番	辻田 実	一六番	安西益男
一七番	石井武敏	一八番	渡辺軍治郎
一九番	渡辺昭夫	二〇番	和田 一郎
二一番	田中祿郎	二二番	五十嵐 昇
二三番	菊井敏博	二四番	西村真次
二五番	伊賀多明	二六番	藤田益治
二七番	遠山ヨネ子	二八番	石井 正
二九番	望月照正	三〇番	山口 康
欠席議員	二名		
五番	黒川平治	六番	鈴木正義

出席説明員

第二号に同じ

出席事務局職員

第一号に同じ

議事日程（第四号）

昭和五十一年六月十六日午前十時開議

日程第一 議案第四十七号

館山市プールの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

一部を改正する条例の制定について

日程第二 議案第四十八号

館山市民センター条例の一部を改正する条例の制定について

日程第三 議案第四十九号

館山市老人福祉センターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

日程第四 議案第五十号

館山市青年館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

日程第五 議案第五十一号

館山市水道事業給水条例の一部を改正する条例の制定について

開

議 午後三時八分開議

○副議長（西村真次君） 本日の出席議員数二十六名、これより第二回市議会定例会第四日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事は、お手もとに配付の日程表により行います。

議 案 の 上 程

○副議長（西村真次君） 日程第一、議案第四十七号館山市プールの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

議案第四十七号 館山市プールの設置及び管理に関する条例の

質 疑 ・ 応 答

○副議長（西村真次君） 御質疑を願います。

○一八番（渡辺軍治郎君） この議案はプールの使用料の値上げに関する議案ですが、まずお聞きしたいのは、このプールをつくった目的とその意義についてお伺いしたいと思います。

○体育課長（川上賢爾君） 館山市民の体力づくりということ、健康の増進といったようなことを主たる目的としたことが第一点、それから第二点は、やはり水泳人口の普及、それから奨励といったようなことを含めまして、スポーツ振興を図っていくということ、意欲でございます。

○一八番（渡辺軍治郎君） ただいまの目的、意義について御回答がありましたけれども、市民の体力づくり、健康を増進するということ、そういうことと合わせて水泳人口の普及というようなことが話されましたけれども、そういう立場からみますと、大体この使用料の別表を見ますと、今回の改定が夏期と冬期を一つにして、いままでは夏期と冬期の料金が別々でしたけれども、一つにして出されておりますが、前の夏期料金から比べますと三倍の値上げになっているわけです。

かなりこれは大幅な値上げでございます、最初の二時間まで、あるいは超過一時間までというこの料金が三倍というような大幅な値上げになっていますが、体力づくり、市民の健康の増進、水泳人口の増加、普及、そういうような観点から考えて、あまり使用料が高過ぎるということでは目的や意義に反するような形にな

りはしないか。

現在利用されている市民といえますか、大体四万四千ぐらいと聞いておりますが、将来温水プールを利用する人たちの展望といえますか、現在よりもふやしていかなければならないと思うんですが、市民の人口からいっても非常にまだわずかな人口だし、そういう点はどういうふうにお考えになっているのか。

要するに、値段が三倍と高過ぎることが、利用のブレーキになりはしないか。もう一つは利用の見通しについてお伺いしたいと思います。

○体育課長（川上賢爾君） 将来の利用の展望ということでございますが、小中学校の子供たちがクラブの指導で、正課の授業の中で、オールシーズン行えるというようにことでございますので、夏の閉期利用ということではなくて、秋から冬にかけても利用の拡大をさらに図ってまいりたいと思っておりますし、現在もクラブ活動等ではそのような利用の仕方をしていられる学校もございまして、さらに、また従来からやっております毎週水曜日婦人無料開放といったようなことをしております。

それから、さらには年間五期に分けまして、一期五日間、二十五日間一般市民を対象とした水泳教室、こういうものを開いて、一層普及振興を付けてまいりたい。水泳教室の卒業生で、いわゆる水泳を中心としたスポーツグループの育成といったようなこともさらに拡大を図ってまいりたい、このように考えております。

それから高過ぎやしないかということでございますが、これは最近の各種のスポーツが従来のスポーツと違って、かなりスポーツの性格も変わってまいりました。同時に温水プールは特にその

経費がかかりますし、従来から比較いたしましたしてその維持、運営費というものが二倍以上かかるというような状況でございますので、みずからの健康を獲得していくための応分の投資をしていただくというようなことから考えまして、実費程度の徴収はお願いしたいと、また小中学生につきましても水泳は減免措置を講じていろいろな普及を図ってまいりたい、このように考えております。

○一八番（渡辺軍治郎君） もう一点お伺いしますが、温水プールができたときは、ごみの処理場の余熱を利用するということが、これは老人福祉センターと合わせて、そういう余熱利用ということと結びつけてやられたと思うんですが、処理場も移転しなければならぬというような問題も起こっていますし、そういう点考えると、将来のこれは問題になるかもしれませんけれども、現在の余熱の利用といえますか、そういうものは重油を使って燃料補給をやっているというのと比べて、一体どういうような状態になっているのか、その点もお聞きしたいと思っております。

○体育課長（川上賢爾君） 焼却炉の余熱利用でございますが、大体一日——これは夏と冬とはちょっと違いますが、平均いたしましてプールでこの温水を投入している量が十五、六トンでございます。したがっていましてボイラーでの加熱、加温、こういったことは、焼却場が移転したあとでもそう大きな支障は来されるというようなことはないと思われまして。

○一八番（渡辺軍治郎君） 私が聞いたのは、余熱の利用とボイラーでやっているどのくらいの差といえますか、どのくらいボイラーの熱と処理場の熱を利用されているのか、それをお聞きしたわ

けです。

○体育課長（川上賢爾君） 熱利用の比較ということになりますと、焼却場からまいます温水は一日十五、六トンということをし申し上げましたが、これは水温にしますと大体四十度から高くして四十五度ぐらいの温水が平均して流れてくるということでございます。したがって、冬場の焼却炉から流れてくる温水と、夏場焼却場から流れてくる温水では経済効率が違います、夏場のほうが高いわけです。

したがって、冬場は大体四百リッターないし五百リッターの重油を一日使用しております。夏場になりますと大体百リッターの重油の燃費ということになっております。

○一八番（渡辺軍治郎君） ただいまの答弁では、料金を上げるということで維持費を出していきたいというようなのが大体料金値上げの理由になっていると思うんですが、ただそれだけで市民の健康とか、体育の向上とか、プールを使用する人口の普及をしていくというようなこととの関係では、ただ経費がかかるから、だから値上げしなければならないんだということだけでは済まされない問題だと思うんですが、その点は市長さんはどういうふうにお考えになっていますか。

○市長（半澤良一君） 私はいま行財政あらゆる面で見直しをしようと考えているところでございますけれども、行政を見直す前に基本的にこう考えております。

自治体のなすべきことと市民自身のなすべきことをはっきり区別をしたい。そういう意味で、健康を増進するということは、これはまず基本的には自分の責任でございます。市民個人個人の責

任で行わなければならない、ただそれを行うための施設、設備を市が、自治体が整備をする。設備は市でやる、そのあとの運営は市民自体でやるべきだと考えているわけでございます。

そういう意味で、温水プールという施設は市でつくっておるわけでございますから、その運営は市民自身の力でやるべきだと、そういう意味で実費を徴収するのが当然だというふうに考えているわけでございます。

○一八番（渡辺軍治郎君） ただいまの市長さんの考え方だと、体力づくりは市民自身の問題だと、市はそういう設備、施設を提供するんだと。当然そういう市民の体育や健康増進ということを考えれば市とすればある程度これはサービスといえますか、市民に対する施設の提供とか、そういうことはサービス面も含まれて考えなければならぬことなんですよ。

ただこれだけかかったから、これだけよこせということだけでは、あまり、健康を増進するということからみても、市の行政としては、当然そういう体育や健康の増進を図っていくためにはそれなりの施設の提供という、そういうある程度の義務といえますか、自治体としてはあると思うんですよ。

だから、そういう点で実費がこれだけかかるから、それは負担してもらわなければならないということだと、これは何か市民に対するサービスとか、そういう面がかなり薄らいで、本当に市は体育の向上とか、健康のことを真剣に考えているのかということに疑いにくくなる、そういうことになりかねないと思うんです。

市長さんの考えはお聞きしましたから、私はそういう点では納得できませんが、質問は終わります。

○一五番（辻田 実君） いまのに関連いたしましたして、一点質問いたしたいと思います。

市長はただいまの答弁の中におきまして、施設は市で行うけれども、運営については実費をもって行うのが当然だということなことを言われましたけれども、それは一般論として言われるかもしれないけれども、体育施設、教育施設については私はそれは当てはまらないと思います。

温水プールというのは体育施設でございます。そして私は、実費主義でいくというのは一般的であるかもしれませんが、スポーツ、教育、文化というのは、貧富の差によってこの機会均等が失われていくことがあってはならないということが一つの原則だと思います。

したがって、温水プールの値段がここで高い、低いは別にしまして、実費主義を貫くならば、二百円、三百円の金が納められない小学生、中学生、そういう人たちが機会均等に、平等に与えられないということは、私は根本的に間違いじゃないかと、やはりこの面は平等の観点の上に立つて、その上に手数料なり料金というものは決めるべきだというふうに思われますけれども、ただいまのプールに対する考え方はそのことを踏まえて、固定してそういう考えなのかどうか。

こういうことになりますと、今後教育施設とか、公民館とかそういうものも全部自分たちでやっていくということと、料金がそれによって決まってくるということになりますと、私は機会均等の面からいって体育とか、そういうものについては若干問題を起こすんじゃないかと。むしろ市のほうに立ってみれば、

ば、行政的予算面から考えるかわかりませんが、市民のほうに立って見れば税金を納めているんだからしたがって——という意見が出てくるわけですから、その接点の中である程度の考え方の違いも出てくることと思うので、この点についてい言ったような観点から再度市長の御意見を明確にさせていただきたいというふうに思っています質問を申し上げる次第でございます。

○市長（半澤良一君） ただいま基本的な考え方を申し上げたわけでございますが、現実にはプールの場合には先ほど体育課長から答弁申し上げましたように、小中学生が学校教育の場として使う場合には無料にしますし、クラブ活動の場合にはそれぞれ減免措置を講じているわけでございます。

○一四番（石井輝久君） 簡単に御質問申し上げます。

二枚目でございます。備考について御質問申し上げますが、備考の前の一覧表館山市営五十メートルプールの一覧表とも関連いたしますが、備考でこれは午前と午後とに使用を分けてございます。午前と午後を足したものが全日になるわけでございますけれども、午前とは午前九時から正午まで、午後とは午後一時から午後五時まで、全日とは午前九時から午後五時まで、そうするとここでいう午前は正午で終って、午後とは午後一時から、全日の正午から午後一時まではこれは午前の部でもなければ午後の部でもない、この一時間の扱いというのは一体どういうことになるのかというのが第一点。

備考欄の三でございますが、昼間とは午前九時から午後五時までとし、とありますが、備考欄の二で全日とは午前九時から午後五時までとする、つまり備考欄の二で全日というものを定め、備

考欄の三で今度は昼間というのを全く同じ時間帯で定めておるんですが、これは一体全日と昼間とはどういうふうに——全く同じ時間帯で午前九時から始まって午後五時までで、全日と昼間とはどういうふうに違うのでございますか。簡単に結構ですから御答弁いただきたいと思います。

○体育課長（川上賢爾君） 最初の御質問についてはもう少し勉強させていただきたいと思うんですが……。

第二点の全日と昼間の見解でございますが、プールを使用していただく場合には、専用使用という考え方で、使用者側からみれば全日の専用使用ということになった場合は、そこにお示ししてありますような九時から五時でございますという意味でございます。それからプールの開場の一日の時間は、九時から五時までが開場でございます。というような意味合いでお受けとりいただきたいと思います。

○一四番（石井輝久君） 意味はわかりますけれども、時間帯が午前九時から午後五時なら両方とも昼間でもよろしいだろうし、全日でもよろしいだろうと、素朴にそう考えたもので御質問申し上げたわけでございます。

だから、議案を訂正したり、修正したりということを要求するほどの大きい問題ではなからうかと思いますが、料金表を見まして全日と昼間と二つに分かれているとかにも意味ありげだし、何か特別の意味が含まれていやしないかと感ずるわけですが、そんな深い意味がないように思いますので、これはきのうもありましたけれども、用語の整理とか、字句の整理だったら一つにまとめたほうが素人わかりはしやすいだろうかという老婆心ながら

御質問申し上げたわけでございます。

それから一点目の御質問ですが、これはなお研究、勉強するという御答弁は、質問の意味がよくのみ込めないでという意味ですか、それとも何か答弁しにくい面があるのでなお勉強するということでしょうか。そのところがわからないので、もう一回お答え願いたいと思います。

○教育長（安田豊作君） 二と三は、二は専用使用に対する注釈でございます。午前、午後の一時間枠ということは二つの操作の関係といえますか、午前の終りに引き継ぎの関係でござんたというところ、それからやはり管理で、昼食、昼休みにあたるということ、二つのことからこれを分けておいたほうが混乱が少ないということ。

それから三のほうは、合宿に対する注釈でございます。合宿所の扱いを昼間、あるいは昼夜間ということと日常取り扱ってあった、それをそのままこの文にした、こういうことで全く全日というところと昼間というのは同じ意味でございます。

○一四番（石井輝久君） これで質問を終わりますが、御答弁わかりましたけれども、どうもこれは教育委員会だけじゃなくて——昨日も道路占用料の質問中若干触れましたけれども、条例全体の扱い方、それから条例を廃棄して新しい条例を制定することにありまして、扱いが非常に——私どもが考えますと用語の点でも、あるいは考え方の点でもちょっとこれはどうかかなと思われる箇所が何箇所も見られるように感じるわけでございます。

これは、県でございますと総務課の中に法規係というのがあって、そこに全部寄せて慎重に検討を加えて、場合によっては起案

者に差し戻してもう一遍検討をし直す、そういうたような扱いをするようにございます。国でしたらもっと大きい法制局とかいろいろあるでしょうけれども……。

何か、この議案第四十七号から離れますけれども、市長さんのほうに要望いたしたいんでございます。条例案の、昨日の文化財の保護に関する条例ですが、これは名称が館山市文化財保護条例前のやつが、今度のが館山市文化財の保護に関する条例、たったこれだけの問題ですが、名称でも何でこう変えなければならぬのか理由がわからない。このほうがいいのか、前のほうがいいのかわからない。

もう一つ。ちょっと発展しますが、道路占用料でも何かあいまいな点として、市長が別に定める額とか、認定する額とかということ。それから用語でも全日と昼間、全く時間帯が同じで——これはこの議案でございしますが、そこを提案される前にひとつ慎重に御検討いただくようにしていただきたいということを私は要望いたします、質問を終わります。

〇一二番（栗原一雄君） 五十メートルプールについて二点ほどお聞きしたいと思えます。

館山市プールの設置及び管理に関する条例第三条によりますと「プールは、常に良好な状態において管理し、その設置目的に応じ最も効率的に運用しなければならない。」と規定されておりますが、本年三月における当初予算において千百九十四万の減額分は、主たる内容は宮城の五十メートルプールの閉鎖に伴う維持管理運営費並びに人件費との内容説明でございました。これについて、再開の見通しについてまず第一点。

それから漏水の状態のその後の調査結果についてお尋ねいたします。

〇体育課長（川上賢爾君） 現時点では再開の見通しはございません。

それから漏水状況でございますが、プールの特にスタンド側の端壁のひび割れ、これが非常に激しいということと、プールの水底面でございますが、水底面の砂土が地下水によって流されております。そういうような状態でありまして、水を入れても六割程度ぐらいしか入らない、それ以上は水圧の関係、水漏れの関係でどうしても入らない。しかもこれを専門業者に検討していただきましてありますが、コンクリートの注入方式でやればできないことはないけれども、一年ぐらいしか保証はできませんと、実際に修理をするにはおそらく新しくつくっても同じ程度の経費がかかってしまうんじゃないかというようなことでございましたので、漏水の状況と合わせて御報告を申し上げたいと思います。

〇一二番（栗原一雄君） ただいまの御答弁で、現時点においては当分の間再開の見通しはないということでございますね。

〇体育課長（川上賢爾君） そのとおりです。

〇副議長（西村真次君） 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。よって質疑を終わります。

委員会付託の省略

〇副議長（西村真次君） お諮りいたします。

本案については委員会付託を省略いたしたいと思いますが、御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○副議長(西村真次君) 御異議なしと認めます。よって委員会の付託は省略することに決しました。

討 論

○副議長(西村真次君) 討論に入ります。

○一八番(渡辺軍治郎君) 私は温水プールの使用料の値上げに反対する討論を行います。

先ほどの説明にもありましたように、温水プールをつくった目的、意義というものについて、市民の体力の増進、健康の維持、発展と、あるいは水泳人口の増加、普及というような、これはいわば市民の体位を向上するために市の施設として設けられたものであって、この面についてできるだけたくさんの方が利用できるようにするのが当然だと思んですが、あまり使用料を多く、高く値上げすればどうしても広い人たちに利用されることは当然むずかしくなるはずです。ある程度の生活力のある人は耐えられるかもしれませんが、全体として低い層の人たちが利用することが困難になるということでは、温水プールをつくった目的、趣旨に反するような結果になる。

いままでも手数料や使用料の値上げがずっと出されてきておりますが、根底にはやはり自治省の次官通達に基づき、使用料、手数料を見直して上げるといふような方向で、いろんな手数料が上げられてきておるわけですが、その中で特に温水プールの使用料を値上げするということは、市の方針としてこれは政策的なものだと思っておりますが、市民の体位の向上というような点から、当然

市が積極的に市民の多くの人に利用されるという立場がとられるべきだと思っております。

それを、三倍も高い使用料をとるといふことは、そういう方向には逆行するような形になりかねないということで、私は先ほど市長が説明された、市民の体位の向上は市民独自の活動であって、市が提供する施設、そういうものについては実費主義で実費をとるんだというような、そういう考え方だけでは済まされない問題ではないかというふうに考えますので、このプールの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例には反対であります。

○副議長(西村真次君) 賛成の討論ございませんか。

○一三番(林 豊君) 私は本案に賛成の立場から討論を行います。ただいま発言のありましたとおり、目的、趣旨等にかんがみますと、あるいは前討論者の意見もなるほどどうかがある点もございませうけれども、このものにつきましては減免の措置も講ぜられておるところでもありますし、現下のきびしい経済情勢の変化の中で市財政の事情等も勘案いたしまして、特に受益者負担の原則をも加味したところの本値上げ案というものは、これからの市のプールをいつでも完全なる使用に耐えるように保全をする意味から申し上げて適正な価格であるというふうに判断をいたしますので、本案に賛成をいたします。

○副議長(西村真次君) 他に討論ございませんか。——討論なしと認めます。よって討論を終ります。

採 決

○副議長(西村真次君) 本案について採決いたします。

本案を原案どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○副議長(西村真次君) 起立多数。よって本案は原案どおり可決されました。

議長が見えたようでございますので、交代させていただきます。
暫時休憩いたします。

午後三時四十五分 休憩

午後三時四十六分 再開

○議長(吉田勇治郎君) 休憩前に引き続き会議を開きます。

議案の上程

○議長(吉田勇治郎君) 日程第二、議案第四十八号館山市民センター条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

議案第四十八号 館山市民センター条例の一部を改正する条例の制定について

質疑応答

○議長(吉田勇治郎君) 御質疑を願います。

○一八番(渡辺軍治郎君) このピアノはロータリークラブから贈呈されたピアノだと聞いておりますが、贈呈された、市が投資したものでなくて、もらったピアノを——当然これは贈呈する側から言えば市民に利用してもらいたいという気持ちは相当考えられるわけです。そういう立場からおそらく贈呈されたと思うんですが、それを五千元というように料金を取って貸すということが

ちょっと私には相当——これ前の千五百円というのは従来の使用料ですけれども、これを五千元という相当高い使用料になるわけです。無料でもらったものを五千元というように高い料金で使用するということのようなことはどうも納得できないわけですが、前の値段と同じではないのか。

これは文教民生委員会で聞いたのですけれども、調律一回に二万円ぐらいかかるということで、そういう程度の金をもし調達するとすれば、もっと安い値段で使用料をきめてもいいのではないかとというふうに考えますが、そのへんはどういうふうにお考えになつていますか。

○市民センター館長(角田 巖君) 確かにロータリークラブより寄贈を受けたものでございますが、現在ございます千五百円のピアノを改めましてグラランドセミコンサートピアノに、これは四十三年にやつぱりロータリークラブから寄贈を受けたものでございまして、それを現在まで使用しているわけでございます。今回のグラランドフルコンサートピアノでございますが、これは現在あるピアノより相当大型のものでございまして、ポリウムが大きく、反響が良く、グラランド型であるというように、最大の弦がございますので、それから今後の維持料というものを考えまして、この程度使用した場合には御負担を願ってもよろうというふうに考えております。

なお、これの設定につきましては、県下の各市の状況を調査いたしましたして、県下の各市のよりも寄贈していただいたもので安く設定しているわけでございますので、そのへんひとつ御了承願いたいと思います。

○一八番（渡辺軍治郎君） 県下のことはそれぞれの事情が違うからわかりませんけれども、市として貸す場合調律一回やると二万円という程度の維持費といえますか、そういうようなものだったから一回五千円というような高い金額でなくともできるんじゃないか。だから利用する側から言えば安いほどいいにこしたことはないわけですよ。当然これは維持費ということはある程度考えて、調律というようになことを考えたと、この五千円というものが妥当かどうかということには疑問があるわけですが、そのへんはどういうふうに考えられていますか。

○市民センター館長（角田 巖君） 実際これは、グランドフルコンサートピアノをお使いになる方は、相当高度の方が御使用なされるのでございますので、この程度の御負担を願っても、これから長い目で見まして、調律現在二万円でございますが、あるいはこれから先値が上がるんじゃないかということも聞いておりますので、この程度の御負担を願ってもしかるべきじゃないかと思いたすので、決めたわけでございますので、どうかよろしく願います。

○一八番（渡辺軍治郎君） それではちょっと伺いますが、年間このピアノを使用する人たちというのは、何件ぐらいございますか。

○市民センター館長（角田 巖君） これは五十年でございすが、音楽会に使用しましたのが二十六件、ピアノ発表会に使用しましたのが十七件、催し物等で使用しましたのが二十一件、演劇発表、あるいはその他放送関係で使いましたものが二十一件でございます。計八十五件使っております。

○一八番（渡辺軍治郎君） 八十五件も使っていれば、五千円という相当高い金額になるわけです。四十万円ですか、それくらいになるわけですが、一回の調律に二万円くらいだということになりますと、相当高額な収入になるわけですよ。だから適当な維持費をみるということだったら五千円というのは高すぎるのではないか、そういうふうに思います。

これは言っても、五千円と出されているんだから、これを修正するとか、そういうことはないと思いますが、私はそういうところから考えて、ただでもらったものを四十万で貸して、そしてかせいとおつりがくるわけですよ、調律やって。そういうことではないかどうかという点では問題があると思うんで……。

一応質問は終わります。

○議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） お諮りいたします。

本案を委員会付託を省略いたしたいと思ひます。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

討 論

○議長（吉田勇治郎君） 討論に入ります。

○一八番（渡辺軍治郎君） ただいまの質疑の中で明らかにしたよ

うに、とにかく八十五回も使って五千円取る、もとはもらったものですからこれはただなんですよ。結局は維持費だけ考えれば、大体市民に対する——要するに音楽とか、文化的な活動方向を発展させるためにも、維持費程度でやるのが妥当だと思ひますよ。八十回という四十万もかせいで、調律一回二万円ということだったらかなりおつりがくるわけです。

文化の向上とか、そういうものを重視するなら、ピアノやなんかをやほりもつと安い価格で貸して利用させるといふことが私は当然だと思ひますよ。

この条例を見ますと、一台五千円というそういう金額、前の千五百円と比べればかなり差があるわけで、八十五回も使うといふことなら千五百円でも十分だと思ひます。それに対してかなり高額な使用料ですから、私はこの市民センター条例の一部を改正する条例にはそういう立場から反対いたします。

○議長（吉田勇治郎君） 他に討論ございませんか。——討論なしと認めます。

採 決

○議長（吉田勇治郎君） 採決いたします。

本案に対する採決は起立により行います。

本案を原案どおり可決するに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（吉田勇治郎君） 起立多数。よって本案は原案どおり可決されました。

議 案 の 上 程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第三、議案第四十九号 館山市老人福祉センターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

議案第四十九号 館山市老人福祉センターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

質 疑 応 答

○議長（吉田勇治郎君） 御質疑を願います。

○一八番（渡辺軍治郎君） 老人福祉センターの使用料についてですが、従来五十円のを百円にする、百円のを二百円にする——これは市外でありますから、市外の人たちが使う分は、当然市民は税金を払っているわけですから、市外の者とはそこに違いがありますから、その分について私は問題はないと思ひます。

しかし、老人福祉センターは、これは六十歳以上のお年寄りは無料でありますけれども、現在使用している状況を見ますと、やはり市民の憩いの場として、あそこでお湯に入つて、いろいろな行事といひますか、将棋をしたり、碁を打ったり、そういうようなことで市民が楽しむ憩いの場になっているわけです。そういう点では福祉センターをつくつた意義というものが、市民に喜ばれている。

そういうふうに考えるので、この使用料も五十円値上げして、要するに倍も値上げになると、当然これは銭湯と比べると大体同じになるわけですが、銭湯という、そういうことだけの比較では済まされないうところに問題があると思ひます、市民の憩いの場と

してやはりこれを市民の多くに利用させるといふ立場からいけば、この値上げはかなり無理があるんじゃないかといふふうに考えますが、何か出てくる議案全体を見ますと、使用料や手数料、そういうようなものをずっと一斉に引き上げてくるというようない連のそういうことが考えられるわけです。

ですから、そういういままでのことを見直して、とれるものはどこからでもとるといふ方向がかなり考えられるわけで、そういう点は私は疑問を持っているんですが、これは、質問したいのは憩いの場として市民が利用する立場から見ても、値段を上げるのは無理じゃないかといふふうに考えますが、そのへんはどういうふうにお考えになっているのか。

○福祉事務所長（山口 一君） 老人福祉センターは、条例の目的にも規定してございますように、老人を対象とした、いわゆる在宅老人対策の一環として設置されたわけでございますので、老人以外の方が利用される場合には、それ相当の使用料をお願いするのは当然と考えております。

○一八番（渡辺軍治郎君） 確かに老人福祉センターですから、老人のために、やっぱり利用するためにつくった。しかし老人だけに無料でもって使わせるということでは維持費も何にも出ないわけですが、無料ですから。しかし老人が利用するといつてもかなり、遊ばせるというと語弊がありますが、老人が使うだけじゃなしにかなり余裕のある、一般の人たちに使ってもらふ余裕のある施設だと思ふんです。老人だけが使用するだけではもったいない、もっと多くの人に使ってもらいたいという面が——やはりそれと結びついて維持費というものが考えられて、一応料金というものが

決まっていると思うんです。だから市民は憩いの場として喜んであそこを使わせてもらっているわけです。老人だけじゃなしに、当然これは老人は無料でサービスするというのは一番大事ですけども、一般の人たちもあそこを憩いの場として利用しているとしたら、大ぜいの人にやっぱり利用してもらうというのが市の行政の立場じゃないかと思うんです。

そういう点がみられないで、さっきもプールの使用料で言ったように、何ていいますか、これだけ金がかかるんだから、それだから値を上げるんだというようなことでは済まされないようなところが感じられるわけです。そのところを市長さんは一体どうお考えになっているのか。市民の憩いの場として安く利用させるといふことは、行政の立場からみたら当然じゃないかと思いますが、そこらはどういうふうにお考えになっていますか。

○市長（半澤良一君） おっしゃるとおり老人福祉センターは、老人福祉を目的としてつくられたものでございますので、老人には無料でございます。

おっしゃるとおりそれだけでは維持費が出ないから、しかも余裕があるから、一般の方々、老人以外の方々に利用していただく、しかし維持費を出すために適当の料金をいただくのは当然と考えるております。

○一八番（渡辺軍治郎君） 一般の人たちに使わせるには料金を取るのが当たりまえだというような御答弁ですけれども、私が質問したのは、市民が憩いの場として喜んでそこを使わせてもらっているという市民の立場から考えれば、行政としてサービスするのは当然ではないかということをお聞きしたんですが、市民の立場

というのは——これは余裕があるわけですから、だから一ぱいになっちゃってどうにもしようがないということで値を上げるなら、これはまた別問題だと思ふんですよ。そういう点をお聞きしているわけです。

○市長（半澤良一君） 先ほども申し上げましたように、プールの件で申し上げましたように、施設は行政の責任において自治体がつくろう、それを利用する場合には市民が、利用する市民が維持費に匹敵するものを支払うのが、利用する市民が払うのが、当然だと思います。

○一八番（渡辺軍治郎君） その点が納得がいけないわけですよ。利用する市民が——市長のことばだと受益者負担、受益者はなんでも負担しなくちゃならないというような、そういう考え方が一貫してなされているわけです。利用する市民が料金を払うのは当たり前なんだからということでは、身もふたもないんじゃないわけです。

私が言っているのは、市民が悪いの場として喜んでゐる、あそこでお湯に入って、碁をやったり、将棋をやったり、一般の市民が喜んでゐる。しかしそこが一ぱいでそれ以上ふえては困るんだということだったら、ある程度料金を上げて押さえるということも必要だと思いますが、市外からも利用しているわけです。市外から来ている人は市民と違うわけです。福祉センターにしても市の財政で、市民の税金でつくったわけですから、市民に対しては市外の人と特別扱いをして、市民には安く利用させるというのは当然だと思ふんです。

まだ余裕があつて、市民が喜んで使っているということならば

値を上げないで市民にサービスするということが私は本当だと思ふんで、市長のただいまの答弁では私は了承できないということ、質問を終わります。

○一五番（辻田 実君） 一般市民の使用内容というんですか、この点はどんなものが主たるものか、その点を教えていただきたいと思ひます。

○福祉事務所長（山口 一君） 現在使用なさっていらっしゃる方々は、正確に数は覚えておりませんが、いわゆる市民グループの方々がございます。

○一五番（辻田 実君） 私は議案提案に対するところの一貫性の問題が非常に重要を感じがして質問するわけです。

先ほどは、こういった施設については、受益者負担の実費主義ということでございますけれども、そういうことであれば、私は一貫して貫かれなければならないんじゃないかということです。プールについては実費主義というのがある程度貫かれておるようでございますが、次の市民センターのグラウンドピアノについては、先ほども出たとおりでございますして、若干の実費制については根拠が薄弱。

今回の内容ですけれども、先ほど市長の答弁の中でみますると、目的が老人の福祉センターだから老人を無料にしているということとですけれども、婦人会館でも商工会館でもどこでもそれ以外の人が多数使用することが主たる目的になっております。現実には館山市の婦人会館は、婦人会が使うとともに一般に開放することが主たる目的にあります。

そこで、私はこの受益者負担の原則ということに、若干筋が合

わないんじゃないかと思ひます。ただいま福祉事務所の話だと、市民クラブというんですか、こういうものが使うということでございますが、公民館の使用料と差が大分あり過ぎるんじゃないか、このへんについても提案の根拠と裏付けをどこに求めたいのか。

私も何度か使いましたけれども、老人福祉センターを使うのは公民館並みに会議を、またいろいろな青少年相談員の会議とか、そういった市民クラブの会議、これは公民館がないからという面が非常に多い。渡辺議員がいったように風呂に入りに行く人は数は少ないんじゃないかと思うんですけれども、そうなってくると議案提案の根拠、そうして一貫したところの市の主体性というのは何なのか。

ですから、さっき質問しましたように、受益者の実費負担主義でいけば、公民館の問題はどうなのか。この点について開きと根拠が一致しませんので、その点についてはどういう関連なのか、実費主義と公民館との兼ね合いについて、料金の差があまり極端になり過ぎる実情をどうお考えになっているのか。その根拠を教えていただきたいと思ひます。

○福祉事務所長（山口 一君） 公民館の使用料につきましては、私存じ上げておりませんので……。

老人福祉センターの百円、二百円にした根拠と申しますか、考え方でございますが、年間の利用人員約二万人弱でございます。老人福祉センターの運営のいわゆる経費でございますが、これを人件費を除きますと約三百万ばかりかかるわけでございます。この利用人員で割ってみますと、単純計算でございますけれども、

一人当たり百七十二円という数字が出るわけでございます。そんなところから、一応市内の老人以外の方は百円程度、市外の方は二百円程度が妥当なところではないかというようなことで御提案申し上げたわけでございます。

なお、年間の運営費全額を利用者一人当たりにあたしますと、八百九十二円という数字が出ております。

○一五番（辻田 実君） 公民館の使用料は一回二百円と四百円なんです。人員に制限がございません。

これとの関係で、先ほどの答弁の一貫性というんですか、どうかということでございます。確かにいまの福祉事務所長の答弁でございますけれども、公民館等知りませんということでございますけれども、提案してくる過程については——いままでも非常にそういう面が感じられるんですけれども、市は一貫した集中というんですか、これはなさらないんですか。

方針というのがある、それに基づいて、その基準の中でもって、市民のだけれども市はこういう方針と、こういう政策で利用料その他について臨んでいるんだというものはわかってしかるべきだと、まして市会議員等についても理解できるようにぐらいいはしておいてもらいたい。

一つ、一つの議案が全部違ってくる。その根拠はわからない。いまも設定に当たっては、先ほど市長の答弁でございますると、実費主義というよりなことでやっておりますという答弁でございますから、教育、それからスポーツ、文化、そういうものについてはそうだといいことでございますから……。ここは公民館とその使う人と、また使う内容についてそう違わないものが相当の

差です。こちらへんについてのあれは個々ばらばらなのか、一貫してそういう基準をもっておるのか。

したがって、一つ、一つの議案については納得できても、全部——三つ、四つの一連のものになってくると、混乱しているような感じがするんですけども、こちらへんについては全体的な根拠というものを、全体として統一する機関と——統一されておるのかどうか。そこらへんについてひとつ経過を御説明願いたいと思います。

○市長（半澤良一君） ただいまの御質問ですが、市といたしましては一貫したつもりでおります。見解の相違だろうと思いますが、たとえば青少年相談員が公民館を使ったり、老人福祉センターを使ったりということもあると思いますけれども、それは使うほうの方は同じ団体であるかもしれないけれども、施設としては目的は違うわけです。公民館は社会教育活動の一環として建てられたものであり、こちらは老人福祉のためにつくられたものです。

たとえばいまお話のように、青少年相談員が集まられて会議をやられても、風呂は入らないかもしれないけれども、風呂はいつでも入れるように準備はしているわけです。そのために金がかかっているわけです。入るか入らないかはそれは御本人の自由でございます。（笑声）利用するかしないかは御本人の自由でございます。そういう点で料金の違うのは当然ではないかと思ひます。

ですから、むしろ使うほうの方の考え方の相違が問題であつて、施設そのものの本来の目的はおのずから違うものでございますので、料金の差が当然あるべきもんだと考へております。

○一五番（辻田 実君） それは管理者的な立場で、そのことを問題にしているわけです。いまおっしゃられたように確かに見解の相違はございますが、相談員が使う場合、相談員は一人ですから場所が変わることもある。目的によつてスポーツとか、そういうものについては料金というのとは取らなくていい場合があるということですから先ほど施設は提供するけれども云々ということもいわれておる、すると老人センターについては老人福祉センターとして使つたんだから老人はただだと、そのほかについては経費主義ということになる、先ほどの、それでは温水プールの問題になつてみれば、青少年の、市民の健康増進のためにプールをつくつたんだから、青少年が使う場合には無料にしてもいいんじゃないか。館山市以外の人だけ料金を取ればいいんじゃないかというふうにわれわれは受け取らざるを得ない。

利用者のほうはそういうことになるわけでございます。そこらへんについて、この場合はこう——老人センターの場合には目的はそうだからじゃプールのときには目的にないかと言ふはある。そこにいけば受益者負担、実費主義だ、こういうことが今議案通して全体にあるわけでございます。そこらへんについては見解の相違ということでございますからしようがありませんけれども、そこらへんは十分今後一貫性のあるように主体性をもってやっていただきたいというふうに思ひまして、質問をする次第でございます。

○議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） お諮りいたします。

本案を委員会付託を省略いたしたいと思います。これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

討 論

○議長（吉田勇治郎君） 討論に入ります。

○一八番（渡辺軍治郎君） 私は老人福祉センターの使用料の値上げについて反対するものであります。

それは質疑の中でも申し上げましたように、これは金銭の問題ということよりも、市民の憩いの場として——まあ老人のための福祉センターとしてつくったんですが、ほかの一般の市民にも、あるいは市外の人にも利用されている。市民と市外の人では差があつて当然だと思ひますが、現在の市民の利用状況をみますとやはりあそこが憩いの場になっているんですよ。館山市でほかに市民の憩いの場所があるかどうかという点になりますと、福祉センターと比べて安い金で利用できるというようなところはそうないと思ひますよ。

あそこに行つた人々から聞きますと、やはり風呂に入つて碁や将棋をやる、楽しむということでは一つの娯楽的なものを含めた憩いの場になっている。

そういう人々に、そういう利益を提供している市の行政としては、当然安い金で利用させるということが、市の側から見たつてそういうことはやはりやらなければいけないんじゃないかと思

うんです。行政としてはそれを実費主義で、経費がかさむから値上げをするんだということだけでは考えられない側面といひますか、いま言った、市民が利用して喜んでいるというような立場からみれば、やはり安い金で利用させる——プールの場合も同じですけれども、目的が違つてもやはり市民のためにそういうサービスを提供するという行政の立場がとられてしかるべきだと思ひます。

そういう点から考えまして、この料金値上げには反対でございます。

○議長（吉田勇治郎君） 他に賛成の討論ございませんか。

○一二番（栗原一雄君） 議案第四十九号に賛成の討論を行います。ただいま審議されました条例改正については、一般の議案説明及び質疑等により了解できました。

老人については無料であり、特別の場合については減免措置がされておりますので、老人福祉センターの第五条の使用目的を十分果たしているものと考えますので、一般財源である市民の血税は、当然市民の生活環境整備のための社会投資に使うべきであると存じますので、市外及び一般の方々には需用費に対して多少の御負担をお願いし、老人保護の立場からも改正措置が必要であらうと考えますので、以上の理由によりまして賛成いたします。

○議長（吉田勇治郎君） 他に討論ございませんか。——討論なしと認めます。

採 決

○議長（吉田勇治郎君） 採決いたします。

本案の採決は起立により行います。

本案に賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○議長(吉田勇治郎君) 起立多数であります。よって本案は原案どおり可決されました。

議案の上程

○議長(吉田勇治郎君) 日程第四、議案第五十号館山市青年館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

議案第五十号 館山市青年館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

質疑応答

○一〇番(流山源次郎君) この議案に関連いたしましたしてお尋ねしたいんですが、昨年度地元の要望によりまして、市の執行部といましては非常に苦しい中、また土地等の借り上げ等について骨を折っていただきまして、条例制定の案件まで出すことについては厚くお礼申し上げたいと思います。

しかしながら、地元といましては、結局その段階におきましては市の補助金を得られなかったということで、軒まいにおきまして三万円ずつの負担金を出したと、結局仲宿区の相当数の者は一度に払い切れなくて、三年間に分割して払うというのが現状でございますが、区といましては青年館の完成と同時に三百八十万相当のものを支払わなきゃいかんということで、ある銀行

から残りのものは借りましてそれを支払ったのでございますが、その支払いの利息も結局これは区の負担でございますし、また年間に五万ないし六万の地代を国に払うというの、受益者負担というところで、現在は本年度の分は地元で払うという結果でございますが、これも軒まいに直しますと、やはり年間でも区費として四、五百円のものも毎年地代を払うたびに出不さなければならぬということで、区の役員としても苦しい立場に置かれているということ、本来ならば青年館が完成された場合だったら七、八十万の補助が得られた、それを定期にしておけば、年間に払うだけの地代は出るんじゃないかと思いますが、現在の立場としてはそういうこととはなないということで、そのまま放棄しておつたんでは孫子の代まで土地代を毎年毎年払わなければいけないということで、何か市長さんに特別にお願いして、この点について善処とか、将来研究課題にしてみらうとか、市の財政の豊かになつた場合に土地を買い入れてもらうとか、何かその点をしてもらいたいという要望なんですが、この点について市長さんから一言お話を承りたいと思います。

○市長(半澤良一君) ただいまの流山議員さんのお話は、地元からたびたび要望がございましたけれども、ほかの青年館がすべて——その区の土地の場合もあるだけでなく、やはり借り地に建っている場合もございますので、地代を払うというわけには——仲宿青年館の場合だけ地代を市で払うというわけにはまいらないというのが現状でございます。

そういう事情でございますして、他のつり合いもございまして、今後これを払うということは、市が払うということは考えられないことだというふうに考えております。

○一〇番（流山源次郎君） 地元の非常にそういった苦しい要望と
いうことで、何か市のほうとしては、今後何か考えるというだけ
の、そういったところの含みは何か持てないんでしょうか。

○市長（半澤良一君） 御案内のとおり仲宿青年館は地元の強い要
望で、県の補助もなくてもいいから——県の補助がつけば市の補
助も出すという形でやってきたわけですが、県の補助も要らない、
市の補助も要らないという、御自分で、御自力でやりになった
わけで、青年館を建てていただいたということは、社会情勢の面
から大変ありがたいことでございますが、初めからそういうお約
束であったわけでございますので、その点十分御認識を新たにし
ていただきたいと思います。

ただ、本来ならば市が、もう一年待っていたければ県の補助
も得られたし、市の補助も出さなければいけなかったわけござい
ますので、施設、設備の点で市として御援助できるものがあれば、
そういったようなこともいま考えておりますけれども、具体的に
どうすべきかということはまだ煮つまっておりませんので申し上げ
られません。

以上の点で御了承いただきたいと思います。

○議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませんか。——御質疑
なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） お諮りいたします。

本案を委員会付託並びに討論を省略して、採決することに御異
議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）
○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

採 決

○議長（吉田勇治郎君） 採決いたします。
本案を原案どおり可決するに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）
○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって本案は原
案どおり可決されました。

議 案 の 上 程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第五、議案第五十一号館山市水道事
業給水条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたし
ます。

議案第五十一号 館山市水道事業給水条例の一部を改正する条
例の制定について

質 疑 応 答

○議長（吉田勇治郎君） 御質疑を願います。

○一八番（渡辺軍治郎君） ちょっとわからない点があるので……。

この定性分析試験と定量分析試験とありますが、この試験の項
目が二十六項目あるという御説明でしたけれども、定性分析試験
あるいは定量分析試験というのはどんな試験ですか、ということ
をお聞きいたしたいと思います。

○水道課長（大嶋重義君） お答え申し上げます。

この定性分析試験と申しますのは、検体におきます物質のあるなし、それからその推定値を求める試験でございます。これに項目として入る例を申し上げますと、外観がございませぬ、色度、濁度、臭気、アンモニア性窒素、亜硝酸性窒素、残留塩素、そういったものの試験が入ります。これは主に外観試験と申しておるわけでございます。

それから定量分析試験でございますが、検体におきます物質の含有測定——含んでいるものの測定値を求める試験でございます。これにはSSと、この前申し上げました、分かりやすく言いますと浮遊物質、COD——これは科学的酸素要求量でございます、BOD——生物科学的酸素要求量、鉄、マンガ、こういったものがこの試験の中に入るものでございまして、このほうが定性試験よりも高度のもので、手数もかかる、こういったものでございます。

〇一八番（渡辺軍治郎君） 定性分析試験という中には、たとえば私が井戸水を検査してもらいたいというような場合に、井戸水の中にアンモニアとか、いろいろそういうもの、それは一つの一項目が二百円、そういうことになりますか。

〇水道課長（大嶋重義君） さようでございます。

一項目が二百円でございますが、ただこれはここにもありますように定性試験と定量試験では一項目の単価が違うわけでございます。ですから仮に水道水の省略をやった場合にしても、一般のものは一項目二百円でいきますけれども、たとえば鉄、マンガとか、こうしたものは八百円になります。

それから大腸菌群、こういったものは千円ということで、です

から水道水の省略、これは水道用の井戸水もこれに入っています、これでいきますと四千円ということになります。

そうした各項目のものを足すわけですが、この場合にはさらに一件の中の級数——クラス、この単価が百九十七円ですから、約二百円ということで、積算の最小単価を一項目二百円と押さえているわけでございます。

（「了解」と呼ぶ者あり）

〇一八番（渡辺軍治郎君） 私は水質検査というものでは、一般の人は自分のうちの井戸水が飲料水として大丈夫なのかどうか、そういうような心配から検査してもらいたいという、そういうものが出てくると思うんですよ。そういう場合に大腸菌なんていうのも一つの項目になると一件について千九百円、アンモニアとか、そういうものになると一項目二百円とかで、そうたくさんはないと思うんですが、井戸水が飲んで差しつかえないような項目を調べてもらうのに一体どのくらいかかるのか、試験してもらうのは、これじゃさっぱりわからないです、こういう形で出されたんです。特別に水質検査をしてもらいたいというのは、それなりの理由があって試験してもらいうことになりますから、その点についてある程度の料金というの、実費でこれだけかかるんだということとでいいと思うんですが、市民の多くの中に井戸水を使っている人たちが、自分の使っている井戸水がたして飲料水として適当かどうかというように調べてもらい、それがあまり高いとちょっと高いからといって検査もしないで、ずっといままでも同じように何でもないので飲んでる。むしろ本当に市民の健康とか、市長が言うように人命の尊重とか、そういう立場か

らすれば、井戸水の検査ぐらいいは安い料金でやれるように、そういうことが必要だと思ふんですよ。そのところはどうなのか、これをちょっとお聞きしたいと思います。

○水道課長（大嶋重義君） この井戸水の場合ですが、四千円ということであります。省略試験、小規模水道と同じ扱いで十一項目を行うということでございます。

○一八番（渡辺軍治郎君） 四千円というのと相当高いですよ。水道は別ですけれども、井戸水を使っている人たちも館山市では相当多いと思います。自分の使っている井戸水が飲料水として適当かどうか調べてもらうのに四千円かかるんだったら、おそらくやり手がないと思ふんですよ。ここらへんはもう少し市民の立場に立つてそういう点は考えられないかどうか。

私は井戸水を使っていますけれども、いままで飲んでてもなんでもないけれども、安心して——これは生命にかかわることですから、検査をしてもらいたい。といつても四千円というのと抵抗を感じますよ。もう少し安くできないかどうか、そこらは市長さんどうお考えになりますか。

○市長（半澤良一君） 結局それを安く——実費が四千円というのは、四千円ぐらいかかっているので実費をいただきたいということとでございますが、それを安くするということは、それだけ水道料金に負担がかかるということでございます。これは実費でいただくというふうに考えております。

○一五番（辻田 実君） この手数料中定期試験というのはどういうことなのか、ちょっと教えていただきたいと思ふいます。

○水道課長（大嶋重義君） これは水道法の中で、水道水の水質に

ついでに検査は定期試験と臨時試験というものをやらなければいけない。臨時のほうは特別ですけれども、定期的にはこれは必ず行わなくてはならないということになっております。これは毎日使う水のことですから濁度、色度、残留塩素、これらに関するものは水道事業者は簡単にできますからやりますが、もう一つの定期検査でございますが、これは省略試験といいますが、これはおおむね月一回は必ず行わなければならないことで水道事業者は義務づけられております。これが一般に省略試験といっておりますけれども、ここである定期試験でございます。

○一五番（辻田 実君） 水道について月一遍程度義務的に行うというところでございますけれども、水道というのは館山市の場合にはほとんど市の水道でやっていると思ふんですけれども、たとえば井戸から上げる水道といいますが、水は、これは一体水道になるのか、該当というのはどのくらい該当するのか。

こういう料金をつくらなくても、ほとんど簡易水道とか市の水道だったら、市のものは中でやられていることですから、こういう項目を上げるのもちょっとおかしいような気がするんですが、そこらのところ理解が得られませんか、対象はどのくらいあるのか。

○水道課長（大嶋重義君） これも条例を設けた目的は前にも申し上げましたけれども、市自体のものはこれはもう水道事業者として当然義務づけられますから、これについては料金はございませうが、ただ市外の——最近では白浜、鵜南とか富山、主にこういった水道の業者が近場でございますので持ち込んでくるわけでございますが、そうした市外のその対象の水道関係のものを盛ったわ

けてございます。

ですから、一般の市民とか、そういった方は、水道事業をやっているのは——市の水道とか、三芳水道以外の関係はございませんので、市外のものについて、持ってくるものについては実費はこのくらいかかりますのでお願いしたいということでの条例でございます。

○一五番（辻田 実君） そうすると、水道法に基づく第一項については特別なときということで、一般市民には関係ないということですか。

と同時に、こういうケースというものは、いままでにはどうだったのか。今後こういうあれがあり得るかどうか。私もちょっと三芳だとか白浜あたりが館山まで定期的に、臨時的にも館山へ来なければならぬというのは腑におちない。当然そういうことで検査はあるだろうし、県にもあるだろうし、あれでもってやっているのに、こういうあれが出るというのはどういうわけかなと思うんですが、そういう実情がわからない、初めての提案ですから。

○水道課長（大嶋重義君） 私どものやっている検査室は、実は昭和四十五年に一般会計の中で始めたものでございまして、他市でも市町村の水道事業者でこれだけの水質検査室を持っているところは、現在でも県の柏井浄水場か、銚子市の浄水場だけでございます。あとはございません。県内のほとんどが料金を大幅に値上げしたわけですが、毎月相当の検体を運ぶわけで、つい近場のところへ持ってくるというのが実情でございます。

これがいままでずっと料金をしでやってあったわけでございますが、去年の十月に——持ってくるもんですから気の毒がって、

それじゃ申しわけないから実費ぐらい取ってくださいということ、再三再四の要請を受けて、それじゃということ、十月に取ったわけでございますけれども、しかし取るためには条例化しなければいけないということをお願いしたわけでございます。

○一五番（辻田 実君） この点についてはわかりました。

先ほどの渡辺議員の関連でございますけれども、大体井戸の一回当たりの検査というんですか、これが四千円だということを言われましたけれども、それでよろしいかということが一点。

いままでこの件については、実際にはどのくらい取っておったのかということ、どう処理されておったのかということ。

それから、この水質検査室を設置するときの経緯については、課長も御存じだと思われ、これを提案するに当たってそれらを調査された上で提案されたと思うわけですけれども、ここ数年来館山市でもって一番大きな政治の問題は水問題だというふうに思われます。というのは、市の広報に書いてあるのを見ますと、やっぱり夏の水問題というのは一番でございます。

当時市長は、水問題解消からいっても井戸を使ってもらわなければならぬ、したがって井戸の水質を検査してやって、できるだけ井戸の水を使えば、市の水資源不足は多少緩和されるのではないかと、こういう面もあって急遽金をかけても水質検査室をもって井戸水の検査を十分してやって、水道を使わなくてもいいものを、そうすれば水がなくても井戸水が使えるというように配慮が多分にあったように思われるわけでございます。

私もそういう面では、水質検査というのはどんどんただでや

っていつて、検査がよければ水をどんどん使ってもらうということとを奨励していくべきではないか、作名ダムができる間の若干の余裕、作名ダムができた後におきますところの水問題を考えた場合に、私はこの四千元という実費主義じゃなくて、市内の人が飲む水を検査してやれば、それでそれだけ飲む水を使えば、市の水道は使わないということになるから、そういう面で館山市の行政の面からいくと、井戸水を使うために検査をただにしてやったら、それはものすごい市にとって協力者であり、功労者であるというように感じがするわけでございまして、私もそういう感じをずっと持っておったわけでございまして、前市長もそういうことをずいぶん私との論議の中でもって答弁されておるやに解釈しておるわけでございます。

今回条例が改正されました、何かそれとこれとは別だ、かかるものはかかるんだからということで、水資源のそういう問題はたな上げされて、実費主義の四千元が出てきたという感じがしてならないんですけれども、そういうことになりましたと、広報、その他いろんなものでもって市民に声を大にして水事情に対する御協力をお願いしますという切実な訴えが、何か四千元のために、井戸水を使うのに四千元の検査を受けなければならぬというの出足をくじかれるという気がするんですけれども、そこらへんについてはどのように考えられたのか。今後どう考えていくのか。むしろ、そういう意味ではただでやったとしても、水資源を確保するというほうがよっぽど安く上がるという感じがするんですけれども、そこらへんの論議はどのようにされて提案してきたのかお伺いします。

○水道課長（大嶋重義君） 第一点でございしますが、飲用井戸水の場合はこれは四千元でございます。

いままではどうかということでございますが、これは去年の十月から実費ということで四千元いただいております。

第三点でございしますが、検査室の関係でございしますが、あれをつくるべき当時の市長の考えがあったわけでございますけれども、館山市の井戸の数は相当あるけれども、その水がいろいろと保健所等の関係でも悪いような状況にあるということで、もし悪いとすれば市民の健康上非常に大事なことであるので、市内の井戸水をやはり検査する必要があるということもあつたんですが、主たる目的は井戸水を検査することではなくして、これからやはり水道を引いていかなければならない、しかも館山市内の状況を見ますと、非常に水源がないためにたくさんの井戸水——深井戸でございしますが、こういったもの、あるいは白土のようなどころの地下水、表流水、いろいろとたくさん水源をとっているわけでございますが、こういった水源について水道とするには手数もかかるし、これから水源を捜していくのに、当時からしても県の柏井浄水場に送っても一カ月くらいもかかっているわけです。そうした結果を早く知りたいものでもつい後手になったり、どうも仕事ができばきかない、そういうこともありまして、やはり水道水を直接の目的に当時つくりまして、合わせて相当の井戸水もあるのだから検査の対象としようということをやったわけでございます。

当時、全市内——まあ漏れたものもありますけれども、こちらから取りに行ったりして約六千近くのものをやったわけでござい

ますが、その当時約八〇％は水道法でいうところの水質には適しない、飲料不適というものが約八〇％近くの平均であつたわけでございます。

そのような状況でございましたんですが、これにつきましては私どもはやはり国もそうですけれども、国民全部水道化ということと国策としてやっているわけでございますし、当然地方自治体といえし、市民の環境衛生の面から水道化が望ましいという点で、この点については私ども井戸水があるから、これについては利用してくれということとは毛頭考えておりません。やはり全市内水道を普及するということで、その時点から現在も考えてやっているわけでございます。そういうことで検査室は非常に今後——いま夏の場合の夏季対策にしてもききと結果が得られたり、検査ができるということで非常に活用されているわけでございますが、こういう面でも今後ともやはり進んでいきたいと思っております。

○一五番（辻田 実君） それは一つの私の質問に対する答弁としての理屈だと思つてございます。そういう面もありましたけれども、いまだ検査室ができてから数年間どうしてこういう料金と表と条例がなかったかということです。

初めの方は、確かにそういうことをおっしゃられましたけれども、確かに水道をつくるために、県に行つてもなかなかできないということとはあつたけれども、しかし市民の現実の——水道をやるために、命の問題だから、暮らしの問題だからということである面が非常に多かったわけですよ。

そのために、当初何回か井戸水を使つていましたから、私はた

だかほとんど料金を取らないうちに、急いできなさいということでもって、えらい来ていたことを覚えております。えらいサービス的に、当時の市長——課長はどう思つていたか知らないけれども、水をそうやって使つてもらふことは、いま水道がないんだからこつたことぐらいは市でサービスするのは当たりまえだということ、そういう処置があつたように思います。課長は別としまして、だからいまだ条例はなかったんじゃないんですか。サービスでやると、サービスでやっているということは市の水道を使わないということにつながるからなかったんじゃないか。

去年の十月以前の料金はどうなつておつたのか。大分使つていますよ。条例がない中でもって、ただだつたと思ひますけれども、若干取られておつたようでございますが、聞くところによると百円、二百円というのがあつたようでございますけれども、去年の十月からそういう面じゃ大きく変わつてくる。特に去年の夏から大きく水事情は苦しくなつてゐる中で、逆比例的なことはおかしんじゃないかと思ひますけれども、十月以前の条例のなかったとき、数年間にわたるところの変遷はどうだったのか、これを教えていただきたいと思ひます。

○水道課長（大嶋重義君） これは開設当初、すべて市外、市内間わず無料ということでしたしやつておりました。

そういうことで、私どもも四十五年からやつてまいりましたが、四十八年に水道事業が地方公営企業法の適用を受けるようになります、はたしてこれでいいかどうか、まして独立採算制を打ち出している水道事業ということで考えたわけですが——それで四十八年から水道企業として出発してまいりまして、昨年の十

月に先ほど申しましたようにきさつて、それじゃ申し込み者の強い要望がありますので、実費という形で薬品代ぐらいはということ、私どものほうでは雑収益として受け入れて今日までできたわけですが、こうしたことは正しいルールに乗せるべきだということ、今回このような処置をしたわけでございます。

○一八番（渡辺軍治郎君） この料金は料金として、先ほども言ったように井戸水の検査が四千円というのは確かに高いと思うんです。前は無料であつたと思うわけです。

市長さんに政策上の問題としてひとつお聞きしたいんですが、料金は料金として四千円の規定はあつても、水道を普及するという立場から見れば、無料でもって飲用水の検査をしてやるということになれば、自分の飲用水の結果が飲用水として適当じゃないんだということがわかれば、こうした人たちはいやでもおうでも水道を引かざるを得ないわけです。

だから、いまは水源がないからそういうことに手を出さないと、しかしダムができて水道を普及するということになれば——全戸に水道を普及したいということだと思ふんです。それには、前には無料だったけれども、若干金を取るにしても、四千円じゃちょっとできませんよ。

だから、できるだけ水道を普及するという立場からみれば、安い金、あるいは無料でも水質検査をしてやって、そしてその人が自覚して、自分の井戸水が悪いというなら水道を引こうという気にもなると思ふんです。また一つの政策としてそういうことは考えられないかどうか。ひとつ市長にできたらこのくらいの英断はしてもらったほうがいいんじゃないかと思ひますのでお聞きい

たします。

○市長（半澤良一君） 作名ダムが完成いたしましたして、水が豊富に供給できるようになりましたら、検討いたします。

○議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） お諮りいたします。

本案を委員会付託を省略いたしたいと思ひます。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

討 論

○議長（吉田勇治郎君） 討論に入ります。

○一五番（辻田 実君） ここに提案されました手数料につきましては、前項のものについてはある程度やむを得ないというふうに思ひますけれども、井戸の検査のものについて四千円とすることについては、いまの館山市の市政の方向からいって、作名ダムができたあとで、水事情がよくなったという状況の中なら結構でございますけれども、そうでない中においてはむしろあらゆる井戸を開発して、市民が水道を使わずにやってくれるということが、市民に対して功労的な状況にあることは事実でございます。そういうことを呼びかけている中에서도逆行的なこと、というのは目的からいって館山の水事情というところにウェットを置く

ならば私は逆行だと思ふ。

その点については、この項は撤回されました、再度そこらへんを検討の上、やはり提案されることが賢明じゃないかというふう
に思われるわけでございまして、この井戸水等の普及を頭打ちさ
せるようなこの料金の改定については私は反対するものでありま
す。

○議長（吉田勇治郎君） 他に賛成の討論ございませんか。他に討
論ございませんか。——討論なしと認めます。

採 決

○議長（吉田勇治郎君） 採決に入ります。

本案の採決は起立により行います。

本案を原案どおり可決するに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（吉田勇治郎君） 起立多数であります。よって本案は原案
どおり可決されました。

日 程 の 追 加

○議長（吉田勇治郎君） この際お諮りいたします。

請願第二号館山、北条、八幡海岸の飛砂公害防止に関する請願
書の審査について、審査期限を延期されたいとの申し出がありま
した。

審査期限延期の件を本日の日程に追加し、議題といたしたいと
思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって決しまし
た。

請願書の審査期限延期

○議長（吉田勇治郎君） 請願第二号について審査期限延期の件を
議題といたします。

経済常任委員会に付託中の請願第二号について、本定例会まで
に審査を終るよう期限をつけたのでありますが、同委員会から会
議規則第四十四条第一項の規定により、審査終了するまで期限を
延期されたい旨の要求がありました。

この委員会の要求のとおり期限を延期することに御異議ありま
せんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって請願第二
号の審査期限は、委員会の要求のとおり、審査終了するまで延期
することに決しました。

日 程 の 追 加

○議長（吉田勇治郎君） お諮りいたします。

本議会の申し合わせにより、常任委員会委員の改選をいたした
いと思ひます。

これを本日の日程に追加し、直ちに議題といたしたいと思ひま
す。これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって常任委員

会委員の改選を日程に追加し、議題とすることに決定いたしました。

常任委員会委員の選任

○議長（吉田勇治郎君） お諮りいたします。

ただいまの決定により、現在の常任委員会委員は全員それぞれ辞職し、全委員会ともに欠員となったことといたしますことに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって決定いたしました。

お諮りいたします。ただいま決定されましたとおり、各常任委員会ともに欠員となりましたので、本日直ちにこれが選任を行いたいと思います。これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。本日直ちに選任することに決しました。

これより各常任委員会委員を、本市議会委員会条例第四条の規定により選任いたします。

各常任委員会委員の氏名を、書記をして朗読いたさせます。

○書記（石井敏夫君） 朗読いたします。

総務委員会委員 伊藤幸太郎さん、林 豊さん、安西益男さん、田中祿郎さん、菊井敏博さん、西村真次さん、藤田益治さん。

経済委員会委員 押元 稔さん、鈴木 稔さん、流山源次郎

さん、栗原一雄さん、石井武敏さん、渡辺昭夫さん、和田一郎さん。

文教民生委員会委員 宍戸寿夫さん、本間昭二さん、松下正己さん、近藤好雄さん、渡辺軍治郎さん、五十嵐 昇さん、遠山ヨネ子さん、石井 正さん。

建設委員会委員 吉田勇治郎さん、黒川平治さん、鈴木正義

さん、石井輝久さん、辻田 実さん、伊賀多朗さん、望月照正さん、山口 康さん。

以上でございます。

○議長（吉田勇治郎君） ただいま朗読いたしましたとおり各常任委員会委員に選任いたします。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって決定いたしました。

この際、同条例第五条の規定により、各常任委員会において互選されました正副委員長を報告いたします。

総務委員会委員長 伊藤幸太郎君 同副委員長 林 豊君
経済委員会委員長 和田一郎君 同副委員長 石井武敏君
文教民生委員会委員長 石井 正君 同副委員長 本間昭二君
建設委員会委員長 山口 康君 同副委員長 黒川平治君
なお、この際御報告申し上げます。

議会運営協議会委員 流山源次郎君、栗原一雄君、林 豊君、石井輝久君、安西益男君、菊井敏博君、藤田益治君、石井 正君。

以上八議員君が選任され、互選の結果委員長に菊井敏博君、副委員長に林 豊君が決定されましたので報告いたします。

閉 会 午後四時五十六分閉会

○議長（吉田勇治郎君） お諮りいたします。

本定例会に付議されました案件はすべて議了されました。よって会議規則第七条の規定により、本日をもって第二回市議会定例会を閉会いたしますことに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって本定例会はこれにて閉会することに決しました。

地方自治法第二百二十三条第二項の規定により署名する。

館山市議会議長 吉 田 勇 治 郎

館山市議会副議長 西 村 真 次

館山市議會議員 栗 原 一 雄

館山市議會議員 渡 辺 昭 夫

○本日の会議に付した事件

一、議案第四十七号乃至議案第五十一号

二、日程追加・請願書の審査期限延期

三、日程追加・常任委員会委員の選任

